

虹色の谷から

第43号

第二やすらぎの郷
小浜市深谷10-1-4
令和4年6月27日



コロナ禍より無事解放☆



暑い日が続く今日この頃、皆さんいかがお過ごしでしょうか？

4月下旬、とうとう新型コロナウイルスの感染者が施設の方でも出ました。保護者の皆様には大変ご心配をお掛けしましたが、5月24日、ようやく療養解除となり、日常が戻ってきました。

利用者さんの溢れる笑顔に接し、また、元気な声を耳にし、「これでこそ第二やすらぎの郷だ。」と実感しています。

まだまだ各地では新型コロナウイルスが猛威を振るっていますが、今後も感染予防に努め、健康で笑顔溢れる毎日を守っていきたいと思っています。



みんな、元気に
なったよ

第二やすらぎの郷
は、こうでなきゃ



新たな気づき☆

コロナ感染前、そして今とでの利用者さんの変化をお伝えしたいと思います。

食事について、コロナ感染者が出たことにより、密を避ける為、居室で摂って頂くという形をとっていました。スプーンで食べ物をすくい、口に持っていくという動作が難しいという利用者さんもおられましたが、スタッフも不足する中での関わりとなっていた為、危険のないよう見守りを行いながら、なるべく自分の力で食事を摂ってもらうように支援をさせて頂きました。

療養解除となり、久々に食堂で食事を摂ってもらった際に、その光景を見て驚きました。以前は食べるという動作に苦慮し、支援が必要だった利用者さんが自分の力で食べる様子を目にし、今まで支援員が必要以上に支援を行っていたのではないかと…という気づきがありました。

第二やすらぎの郷は「支援施設」です。その為、自立した自分らしい日常生活を利用者さんに送って頂く為にはどうしたら良いのか、ということを常に模索し、支援を提供していかなくてはなりません。「こういう方法は難しいかもしれないけれど、こういう方法なら自分でできそうだね」というように、「できること」の見極めをし、持てる力を伸ばし、維持することが大切です。コロナ療養の中、発見で得たものは、意外にも大きなものでした。本人の持っている力を大切に、これからも、支えていくことができれば幸いに感じます。



児童ユニットの ちょっぴり小話

現在の児童の入所者数は2名。内1名は4月より特別支援学校の幼稚部から小学部に、もう1名は小学部から中学部にそれぞれ進級され、ピカピカの1年生としての新生活がスタートしました。

小学部になった児童は、昨年、周囲の状況に警戒し、別室に入室する際に戸惑う様子が見られたものの、今年度はスムーズに入れるようになりました。中学部になった児童は、食事の際、食器を正しく持つことが苦手でしたが、直すよう促すとスムーズに直す、自らおかわりを求めるようになったなど、学校より、沢山の成長の声を聞いています。

高齢者は1日1日の老化が激しいという半面、児童は1日1日大きく成長しているように思います。障害児の支援方法として、否定的な言葉掛けをするより、肯定的な言葉掛けが大切、成功経験を積むことが大切ということを基にこれからも学校と連携を取りながら、精一杯支援をしていきます。



DYS☆書道展

次回の海清の写真で使用する為、利用者に書道をして頂きました。皆さんがとても意欲的に取り組んでもらえたおかげで、立派な字が完成しました。



次回の海清で
もお楽しみに



文責：尼谷